

Alvar Aalto アルヴァ・アアルト



自然と人間を結ぶ 有機的空間

フィンランドの美しい豊かな自然と風土そのものと言われるアルヴァ・アアルトの建築や家具などの作品に一貫しているテーマは、自然への融合と、五感を刺激する有機的な素材への深い理解、そして人間を中心に考えるヒューマニズムです。機能主義や合理主義をかかげた近代デザインの流れのなかで鉄、コンクリート、ガラスの無機的な素材に対し、アアルトは、木材の質感を愛し、再び新しい生命力をもたせ、近代的な量産家具の素材としてよみがえらせました。

1930年代に創られた彼の家具は、積層の曲木の技術により、天然素材としての木材の魅力を生かし、完成されたデザインで、今なお新鮮な普遍性を持ち続けています。今日、多くのすぐれた作品が、世界中に販売され愛されていることがそれを証明しています。



左上: パイミオ・サナトリウム(療養所)
右上: ヘルシンキ・テクニカル・ユニバーシティ
左下: フィンランド・ホール
右下: ザ・スリー・クロス協会



design

Alvar Aalto

アルヴァ・アアルト(1898-1976)



Profile

- 1898 2月3日 フィンランド中西部クオルタネに生まれる。
- 1821 ヘルシンキ工科大学建築学科を卒業。
- 1927~35 フィンランド東部の中心都市ヴィープリの私立図書館の設計コンペに優勝。
- 1928~33 パイミオのサナトリウム(療養所)を設計。公共施設の設計者として国際的な地位を築く。
- 1929 トゥルク市市制700年祭の展示会場の計画をエリック・ブリッグマンと共同設計。
- 1935 家具会社「アルテック」を設立、デザインした家具類をそこで専売。
- 1935~37 パリ万国博覧会フィンランド館を設計。
- 1937 友人であるフェルナン・レジェ、アレクサンダー・カルダーの合同展覧会が「アルテック」により催される。
- 1938~39 ニューヨーク万国博覧会フィンランド館を設計。
- 1939 クラブルックのエリエル・サーリネンを訪れる。
- 1940~47 マサチューセッツ工科大学教授として招かれる。
- 1947~48 マサチューセッツ工科大学の学生寮「ベーカーハウス」を設計。
- 1955~58 ヘルシンキ都市計画のひとつ「文化の家」を設計。
- 1956 ヴェネチア・ビエンナーレのフィンランド館を設計。
- 1959 ドイツ・エッセンのオペラハウスを設計する。ヘルシンキセンターの計画が始まる。アアルトにとっては最大の仕事で、この1・2年の間はこれに没頭する。
- 1971~73 アルヴァ・アアルト美術館を設計。
- 1976 没。

Alvar Aalto
611 Chair

611チェア

1929-1930 *Alvar Aalto*
Design by:
Made in Finland

丈夫なバーチ材のフレームとリネンのウェビングテープによって形づくられています。座面と背もたれが、座った人の重みを優しく受け止め、とても心地良く座ることができます。

611チェア
AA-0611NB

フレーム: バーチ
ナチュラルラッカー仕上
背・座: リネンウェビングテープ(ブラック)
サイズ: W485・D490・H800・SH450

¥80,000(税抜)

アルテック社製